

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日令和1年10月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671500165
法人名	医療法人仁梅会
事業所名	グループホーム虹の杜
所在地	899-3303 日置市吹上町湯之浦760-1 (電話) 099-245-1460
自己評価作成日	令和1年10月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事(花見、温泉祭り、太鼓踊り、敬老会、忘年会、家族会を4月、9月、バーベキュー、RUN伴への参加。茶話会、初詣)等を計画し、家族の協力を得ながら実施している。行事の際1年間の写真をDVDにし、流している。地域との交流を大切に自治会に開所当初より加入、自治会奉仕作業、地域の行事、郷土芸能、温泉祭り(灯籠作りや踊りの披露)に参加したり、外出の機会を設けている。毎月の茶話会は、地域へ声かけし、図書館から紙芝居をしに来ることや、地域の方が三味線を弾きにくることがある。地域の道の駅で、新鮮な野菜や果物を購入している。新鮮な食材を購入し調理するよう心がけている。季節の行事の菓子作りや職員が得意分野を生かしながら料理、手作りおやつを工夫し提供している。ケーキ、ふくれ菓子、あくまき、プラムジャム等を利用者さんと共に、思い出話しをしながら作っている。隣人に配ることもある。本人の誕生日に、各フロアでお祝いし、茶話会の際合同で再度お祝いしている。誕生日には本人の願いを叶えている。(パーチェヘアイスクリーム、ジョイフル、家に帰る。墓参り、家族と外食など)。理事長が医師であり、急変時の対応も、日祝昼夜問わず24時間理事長へ直接連絡し、対応できる体制である。月1回～2回ではあるが、正看護師の出勤時、看護面でのアドバイスをもらったり、職員の相談に応じている。筋力低下予防や、認知症悪化予防として、健康体操や脳活性化体操をしている。利用者さんの得意分野(調理補助、掃除、草取り、裁縫など)を生かし、生活していただいている。入所者様のレベルに応じた支援を行っている。(個別外食、外出、買い物など本人の希望に応じて随時実施している)職員のスキルアップの為に、普通救命講習Ⅰ、食品衛生責任者、オレンジリング(再受講)の受講をはじめ、資格習得に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人で近隣には高齢者住宅や老人保健施設のほか、大型スーパーや温泉施設、銀行、郵便局などがあり利便性が良い。母体医療機関や協力医療機関と密に連携して、利用者の健康管理と安全確保に重点を置いて、日常のケアの充実に管理者と職員が一体となって取り組んでいる。

日常的に地域の方々と会話や挨拶を交わし、ホームで開催する敬老会や毎月の茶話会、災害を想定した訓練や運営推進会議には家族や地域の方々の参加をもらうと共に、自治会に加入して総会や地域の祭り・清掃活動等へ参加するなど地域との交流は非常に深い。

利用者が家庭的にいかにか気持ちよく過ごせるか、そして出来る限り自立して本人のペースで生活を送れるかに管理者及び職員の関心が払われ、それらの実現に向けた意見交換と情報共有に重点が置かれて、身体拘束排除への取り組みのほか、食への楽しみ推進のための工夫や多くの外出支援の企画など、日々サービス向上に向けた取り組みが実践されている。

年2回は地域の消防署や住民の協力を得ながら消火訓練・避難訓練を実施すると共に、2ヶ月に1回は自主訓練も行い、訓練実施後は自己評価を行い、反省点を協議・整理して更なる体制整備に努めている。また、家族や近隣の方々には災害を想定した様々な対応もお願いして協働関係を築くなど防災への意識は非常に高い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を身につくところ複数箇所に掲示しており、全職員が理念を機会ある毎に確認、共有し、実践に努めている。地域密着は理念の一つであり、常に心がけている。	地域との関わりを大切に考え、利用者が家族や友人と関わりながら、その人らしく、日々の生活ができるように支援に取り組んでいる。理念は掲示して全職員で共有し、日々のケアや職員会議などで意義を振り返りながら毎日のケアに実践するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	茶話会、敬老会等に来所して頂いたり、地域の行事（温泉祭り、太鼓踊り、集落清掃等）にも参加している。総会へ参加している。近所の方が野菜を持ってきてくださる。	自治会に加入して案内される総会、清掃活動、温泉祭り等に参加、また日常的にも地域の方々と挨拶や話を交わして積極的に交流している。ボランティアの受け入れ、ホームの茶話会・敬老会等への地域住民の参加のほか、防災訓練や運営推進会議にも参加してもらうなど積極的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の温泉祭りに参加し、毎年踊りを披露している。灯籠の出品やボンボンを利用者と共に売っている。（本年は雨の為、職員のみ参加）ラン伴へ利用者様と参加し、地域の方々と御家族と一緒に歩き、交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者、家族代表者自治会長、市の職員、虹の杜職員が参加し、出た意見は職員会議で全職員に報告され、出された意見は、柔軟に取り入れている。係以外の家族の参加もある。（家族へ参加の呼びかけをしている）	会議は家族や利用者、地域住民、市役所の職員等関係者が参加して定期的に開催されている。ホームや利用者の現況報告のほか、事故・行事・課題等について活発な意見交換が行われ、日々のサービス向上に役立てられている。防災や身体拘束などの改善をはじめとして多くの助言ももらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新の申請、生保者の相談を管理者が行っている。介護保険課や地域包括支援センターと入所受け入れ等の相談等を担当職員と情報交換している。防災訓練、救急講習に参加依頼している。健康保険課とも集団検診の名簿を作成したりし、連絡を取りあっている。運営推進会議に参加していたき事業所の実情を報告している。	市担当者には毎回の運営推進会議でホームの現状を理解してもらい、電話や訪問で利用者の暮らしぶりやニーズに関すること、各種の手続き上の相談ごとに助言・対応してもらうなど協力関係を築いている。案内される研修会等にも出席して意見や情報の交換も積極的に行っている。年に数回は介護相談員の来所もあり、利用者の立場に立った意見ももらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でのマニュアルを作成しており、勉強会の実施もある。管理者が身体拘束の研修に行き、全職員を対象に勉強会を開催している。日々のケアの中で意見交換に努めている。玄関の鍵は21時～6時までのみ施錠している。帰宅願望、徘徊の方には、訴えを傾聴し気分転換を図るよう心がけている。（散歩やドライブ）身体拘束委員会を設けており、職員会議時や運営推進会議で、知識を深め、よりよい介護方法を話しあっている。家族とも身体拘束について話をしている。自覚しない身体拘束がないか、確認しあっている。チェック表を使い確認している。	職員は連携を図って見守りの徹底に努めている。特に言葉をさえぎることや気持ちの押さえつけ・行動制限の防止には、関連するマニュアルの整備とともに、日々のケアの中や毎月の勉強会、職員会議、職員作成のチェック表で繰り返し確認して理解を深め支援に努めている。職員の見守りのもと、日中は玄関や居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を実現している。地域の方々にも見守りや声かけをしてもらえる関係づくりを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時に身体観察を行っている。不潔行為や繰り返しの訴え時一人ひとりの状態、理解度に合わせた声かけ、見守りを心がけている。他の人のいる前でのことばかけの配慮、自宅から帰宅された時など、利用者の変化観察を行っている。利用者のサインを見過ごすことのないよう配慮している。マニュアル作成し、身体拘束委員会より、月1回勉強会を実施し、再確認している。物の言い方や口調によっては、言葉の虐待につながる事を理解し言葉遣いにも気をつけている。利用者に対する態度や言葉は心をもって受け止め返していくことを心がけている。利用者の行動の意味を理解し、状況報告を行っている。日々の生活のなかで職員の言葉かけ、ケアの方法について話し合い、虐待防止に努めている。勉強会の中で毎回虐待がないか確認、勉強している。管理者が研修に行き、全職員を対象に勉強会を開催している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社会福祉協議会、地域支援事業、後見人制度を利用している時期があったが、現在は該当者なし。民生委員との情報交換をしている。マニュアルあり。現在、家族の方がしっかりと身元引き受けの役割をしている。職員会議のテーマで勉強している。運営推進会議の際、社会福祉協議会より着ていただき、日常生活自立支援事業について講話をしてもらっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前の施設見学時と、入居時に、管理者が説明している。家族本人の不安の軽減に努めている。契約時には必ず説明し、担当者会議、面会時に話したり毎月の便りにも記入したりしている。改定などの説明は管理者より行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿記入の所に意見箱を設置してある。面会時、担当者会議、家族会、運営推進会議などで意見を求めたり、何でもいえるような雰囲気作りに努めている。利用者の言動や態度から本人の想いを察するよう心がけている。面会時などに要望や、意見があったことは、全職員へ報告し、みんなで最もよい案で対応できるよう話し合い、反映させている。三ヶ月に1度介護相談員来所し、利用者の相談に乗って頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、参考にしてている。	利用者の思いや意見は日常会話や所作の見守りなどで把握に努めている。家族とは訪問時の対話のほか、家族会・担当者会議・運営推進会議、また、電話でも要望や意見を得ている。これらは毎月の職員会議やフロア会議で全職員が内容を共有し、ケアに具体的に反映できるように取り組んでいる。家族へは電話や来所時の対話、毎月のホーム便りなど必要な報告を行っている。遠方の家族にも月に1回の面会をお願いしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、フロア会議で意見、提案を聞く機会を設け、出来る事は反映している。職員会議の前に一緒に手作りの御飯や地域の弁当を食べたり、コーヒーを飲んだりする機会を設けておりその際、意見が活発にでていく。(職員会議ではでないような意見もでてくる) 開設者(理事長)は、管理者、職員から直接意見を聞いている。建設的な意見をいうよう計らっている。理事長が毎週きている。	管理者は、職員会議の前に食事やお茶の時間を設けるなど、日ごろから職員が意見を出しやすい環境づくりを心掛けている。また、理事長も管理者や職員の意見を直接聞く機会を作っている。職員会議やフロア会議での意見交換は活発で、業務改善や利用者へのサービス向上の実現はもとより、職場環境や就業条件の改善、職員の資格取得などに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長へ、勤務表を毎月手渡している。研修会への自発参加に応じている。資格手当、職能給の実施(パートの時給up)夜勤手当up。職員からの要望は可能な限り取り入れるよう行っている。急な、勤務変更にも対応している。長期の休暇や職員に応じて夜勤の考慮を行っている。職員に応じた働き方を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員会議の前に勉強会の実施を、毎月担当を決めて行っている。毎年、年度の終わりに、次年度の各月のテーマを決めて取り組んでいる。各研修などには積極的に参加できるようにしている。年に1回は、全職員が外部研修に参加できるように配慮している。介護福祉士取得や実務者研修受講の職員に対し、休みの配慮をしている。全職員の資格習得をめざしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県、日置市のグループホーム協議会に入り、研修開催の都度参加し、情報交換をしている。又、介護福祉士会の研修に参加し、交流している。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みは家族が殆どである。本人に入居前に必ず、施設見学をしてもらっている。時間にゆとりのある時は入居者と一緒にお茶を飲んでいただいている。本人の馴染みの顔もあり、地域の話で、不安が軽減している様にする。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に、ご家族からの要望を伺い、ケアプランを立てている。入居後も意見を伺いながら、家族と協力しながら、支援できるように努めている。誠意をもった対応を心がけている。利用にいたるまでの苦情はなし。医療面に不安のある御家族へは、事前に医師（理事長）から直接話しをする機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活の維持が出来なくなった。病院からの退院、老健での退所を迫られての申込者が多い。本人や、ご家族の思い、状況確認に努め、担当ケアマネージャー、担当理学療法士、NSとの情報交換を行い、グループホーム利用対象者かどうか面会し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬物作り、あくまき作り、毎日の調理など、味加減、調理方法を聞きながら、一緒にしている。踊り、掃除、お茶、食事、散歩、外出、畑仕事、洗濯物のしわ伸ばし、草取り等その人に応じての支援をしている。人生の先輩として、尊敬の念で支援できるよう心がけている。入居者に応じた、経験や知識を生かし、得意な分野で充実感が得られるよう支援するよう努めている。(元看護師による入居者様のお世話や、俳句を作っていた方による絵本の読み聞かせなど)。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室にて、お茶、手作りのおやつ等、提供している。差し入れも自由であり、家族から飲み物や夏場はアイスクリーム等の差し入れがある。遠方の方は本人の好む物を送ってくることもある。現状報告などを、面会時や、月初めの手紙でなるべく詳しく報告するようにしている。状態変化時は、そのつど、電話にて連絡している。家族会、温泉祭り、敬老会・忘年会等の参加の声掛けし、一緒に過ごす時間がもてるよう配慮している。外出、外泊、病院受診、病院へのリハビリ、理美容、墓参り、衣替え等の家族支援がある。居室でカットをされる方もいる。入居後、本人の居室へ家族が泊まることもある。行事の際に一緒に外食をする機会をもうけている。家族の作った野菜や米の差し入れがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由である。誕生日に、外食や軽食を食べに行かれたりしている。お盆や、正月帰省など、家族の支援も促している。家族の方に、行きつけの美容院へつれていってもらっている。馴染みの美容室からの出張カットもある。面会も居室、ホールなど、好む場所である。面会時に茶話会や誕生会等への参加を呼びかけている。家族が体操をしてくださることがある。スーパーなど外出先で利用者の知人に会った時などは、なるべく語り合えるよう配慮している。自治会から敬老のお祝いを民生委員が直接届けてくださる	利用者の家族や知人・友人の訪問の際には、居室やホールでゆったりとくつろげるように可能な支援を行っている。また、電話や手紙、贈り物等の取り次ぎ、読書や和裁・俳句などの趣味の支援のほか、本人が希望する美容院・商店・墓参り・一時的な帰宅などへの同行及びその折の知人との交流も積極的に支援している。家族との外出や外食、外泊なども積極的に勧め、家族会や敬老会、地域行事などにも参加の呼びかけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性を把握し、入居者同士が円滑に生活できるように、努めている。座る席の配慮を行い、楽しく生活できるように工夫している。毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話ができるよう配慮したり、役割活動など（テーブル拭き、茶碗洗い）を通して利用者同士の関係が円滑になるよう職員が入り、働きかけている。利用者様同士、協力、助け合う場面も見られる。各フロア間の行き来もある。気の会った利用者様同士が居室などで会話できるよう見守っている。一日一回は、必ず全員の入居者に声かけするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院者に対してはお見舞いに行く。他施設利用者には面会に行っている。近況を聞いたり、訪問したりしている。家族と会ったときは、挨拶をし現状を聞いている。退所後、ご家族が挨拶に来られることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活リズムは個人のリズムの理念を、念頭におき、日々の会話の中で、思いや希望、言葉や表情などで本人の希望や思いが汲み取れるよう心がけている。本人の思いや希望に傾聴し、少しでも本人の思い添えるよう、心がけて支援している。家族にも相談し、思いを少しでも叶えてあげられるよう努めている。職員同士で情報交換を行っている。誕生日の日に家族と協力しながら、本人の思いを叶えている。(墓参り、外食、自宅へ帰る)ドライブなどで、自宅の前を通ったりしている。	利用開始時の本人や家族からの聞き取りや、日常の言葉や表情・所作から思いや意向を把握するように努めている。職員間で十分に情報交換を行い、必要時には家族の意向も確認しながら、何よりも本人がその人らしく、本人のペースで日々を過ごせるように支援の方法を話し合っている。具体的には、利用者が希望する墓参りや一時帰宅、ドライブ等への同行支援などがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅からの入所の場合は、担当ケアマネージャー、病院や施設から来られる人は、サマリー、や、情報提供書で把握することが主であり、その他、家族よりの収集がある。(家族や、前施設、病院で把握しておらず、入居後にわかる事も多い)入居後本人自身の語りや、面会者より、今までの生活の情報を得ることもある。事前に地域住民からの情報もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分摂取量、表情、動作、睡眠時間、会話など様子観察し、声かけ見守りを行っている。気付いた事、変化した事は、ケース記録に記入し、把握ができるようにしている。毎日、日勤者⇄夜勤者の申し送りをしている。できることと、してきたことに注目し、スタッフ間で意見交換を行っている事を介護計画に繁栄できるように努めている。8時30分、夕食前に血圧、脈拍、体温、顔色、活気等で早期発見に努めている。排泄チェック、行動記録を残し、異常があればすぐ対処できるように努めている。特変時は医師へ連絡し指示に従っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時、モニタリング時のみでなく、家族の面会時に、心身の状況を話し、要望を聞き、提案をいただき、状態変化に合わせて、フロア会議や、申し送り時などに、意見交換し、プランを作成している。医師への相談、受診は状態変化時に行っている。医師より助言をもらっている。月1回の正看護師出勤時に、アドバイスももらっている。常時、スタッフ間で情報交換を行い介護計画に繁栄している。フロア会議で再確認している。</p>	<p>介護計画は本人・家族からの意向や希望を聞き取り、主治医や看護師からの意見や助言も踏まえて、職員全員で意見交換してきめ細かなわかりやすい記述の介護計画を作成している。ケアの経過は支援経過記録やケース記録、ケア記録等に詳しく記録され、申し送りや連絡帳も活用して、様々な状態変化に応じて計画の見直し修正がタイムリーに行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>夜勤、日勤者が個別記録し、申し送りや職員がいつでも、読める状態で、読んだら押印している。記録は、夜勤、日勤ともにわかりやすいように色分けして記入している。個別にケース記録、排泄チェック表をファイルに綴じてある。職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載し、職員間の情報を共有している。申し送りと、連絡帳の活用もある。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>理事長がクリニック経営者であり、医療との連携は密である。本人、家族の状況に応じて通院などの支援は、対応している。利用者に応じた外出支援をしている（本人の希望するところ）。ホームには、自由に宿泊できる。また家族の要望に応じて、訪問、理美容を利用できる。他事業所の介護保険外の外出支援サービスを必要な方へは紹介し、利用している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>防災訓練。救急法指導。各地域の民生委員さんの面会あり。ボランティアの実施もある。（地域住民、図書館司書）防災訓練で、通報、避難、誘導の指導、説明を受けている。居宅支援事業所の訪問がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族、本人の希望にそったかかりつけ医となっている。（専門医など）家族が同行する際は、状態を報告したり、文書を渡している。医療機関によっては医師や相談員と、直接電話にて状態を報告することもある。かかりつけ医、協力医療機関との連絡は密にし、緊急時でも対応できる様にしている。受診し、変更があった場合は、家族へ報告している。</p>	<p>現在は母体病院を受診する利用者が多いが、利用者個々の利用前の受診の経過把握に基づき、本人・家族が希望する医療機関の通院もしくは訪問診療を適切に支援している。専門医の受診は家族にお願いしている。受診状況や必要な対応についても職員をはじめとする関係者で情報の共有が図られ、家族とも適切に連絡が取られている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>理事長が医師であり、医師へ直接相談している。24時間対応可能である。月1回、正看護師出勤時に気になる入居者さんを診てもらい相談している。看護師と医師との連携も密である（月1回の出勤時必ず医師と情報交換している）。ケアプラン作成時、留意点などアドバイスを受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院初日に、施設での状態を病院に、情報提供し、職員が見舞いに行き、励ましている。病院関係者から、話を聞き状態確認している。家族とも情報交換し、多くの職員が見舞うように心がけている。退院時は、退院支援情報提供支援シートがくる。退院前に、カンファレンスがある事もある。（医師・NS・PT・OT・CM・家族・虹の杜職員）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>随時、本人、家族の意思確認しながら、取り組んでいる。家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、職員が、連絡をとり、状態変化があった時は、その都度、医師に連絡し、指示を仰ぐ。夜間、早朝でもかかりつけ医が対応可能。かかりつけ医、不在時は協力医療機関に連絡を行い、迅速な対応している。</p> <p>状態の変化に伴い、主治医の判断により、ホームでの生活が困難となった場合は、相談しながら、入院及び、相応の機関への対応としている。家族や本人の要望を出来る限り取り入れ、かかりつけ医と状況報告を密にとり、サービスを提供している。家族、本人の意向により終末期ケアを行うか話し合い、医師を交え検討している。納得が得られた際、家族、関係医療機関と連絡を密にとりあい、家族の協力のもと、同意書を取り行っている。</p>	<p>医療連携体制があり、利用開始時に重度化や終末期においての方針を説明し、同意を得ている。様々な変化の都度家族とも十分に話し合い、その意向を最大限大切にすると共に、医師との連携を密にして、入院や他の施設への移動など、ホームで行える必要な支援を実施できる体制づくりを図り家族との信頼関係も深まっている。職員のスキルアップのために看取りに関する研修も実施して、職員の不安解消にも努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会などで、急変時の対応を学んでいる。連絡網や緊急時のマニュアル作成し、目に付く場所におき、いつでも目が通せるようにしている。年1回、消防所の協力を得て、AED、救急法、心肺蘇生法の訓練を実施している。勉強会で疾病や応急手当について学んでいる。職員の殆どが、普通救命講習1を取得している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自治会防災組織図がある。市の防災無線の設置あり。火災報知機、スプリンクラーの設備がある。火災時は自動通報できる様になっている。自治会長へも災害連絡が行くようになっており、災害時は自治会長から、地域の消防団へ連絡が行くようになっている。運営推進会議で、市職員、自治会長、家族と、災害について話題にしている。防災訓練を合同で行っている。</p> <p>消防署の協力を得て、初期消火、避難、通報、誘導訓練を実践している。マニュアルあり。火災、地震、水害などを想定、避難、災害誘導の訓練を二ヶ月に1回実施している。夜間訓練の実施をしている。各フロアに、タオル、ビニール袋、ヘルメット、笛、トランシーバーを設置している。年1回は総合防災訓練を実施している。訓練後は、反省点などをふまえて対応している。地域の防災マップを掲示している。</p>	<p>消防署や地域住民、家族とも連携して年2回は総合防災訓練を実施し、2か月に1回は自主訓練も行っている。緊急救命訓練や消火器の取扱い訓練、避難経路の確認などが行われている。また、スプリンクラーや自動通報装置、火災報知器、市の防災無線等の設置や食料・水・防災用備品等の備えも十分である。訓練の後は反省会も開き必要な対応を実施し、運営推進会議でも災害等への対応を話し合うなど、防災への意識は高い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを、常に頭に入れて、尊敬の念を持って、声かけ、対応に努めている。排尿排便の失禁時、さりげなく声かけし、言葉を選び対応するよう心がけている。オムツは、直接目に触れないようにしている。排便の有無を、他の利用者のいる前で大きな声で尋ねないなど、利用者の誇りやプライバシーを傷つけないようにきをつけている。居室への入室時はノック、声かけを行っている。プライバシー保護の徹底や個人情報漏洩防止の責務は徹底している。利用者一人ひとりに合わせた言葉掛や傾聴に努めている。職員会議の際、尊厳について勉強している。	ホームの内外で接遇や個人情報保護などの研修の充実を図り、利用者の意向に心配りしながら、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応の防止に努めている。個人記録の取り扱いや居室の保護などにも誇りやプライバシーの確保に徹底した配慮がなされ、日常生活での観察も細やかに、利用者個々のペースに合わせたケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日何をしたいか、どの服を着たいか、一緒に選ぶ。利用者一人ひとりに合わせた説明をし、体調や状態を把握し、自発的な言葉や、意見に耳を傾け、自己決定できるよう努力している。何か言いたそうで言えない方には声をかけて、想いを伝えることができるよう心掛けている。自分でやりたい事を選択できるような、空気を作るよう心がけている。誕生日に限らず、好みの食べ物を提供している。買い物に行った際などは、自分で選び購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは個人のリズムの理念に添って支援している。10時のお茶時に、話をしながら、何をしたいか聞きだし、できることはすぐに実施している。余暇活動への参加は自由である。基本的な一日の流れはあるが一人ひとりの体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援に配慮している。早く休まれる方や、21時過ぎまで起きてテレビをみたり、談話をされる方など様々である。遅食、朝食など個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗面所の手の届くところに、ブラシを置いたり、自分でもってこられたりし、起床時、入浴後や午睡後など、整容できるようにしている。本人が納得するまで見守っている。化粧水、乳液や、整髪料も、個々に対応している。理、美容は家族と馴染みのところへ行く人もいる。必要に応じて、出張美容の利用を実施している。好みの洋服を着ている。ワンピースを着用する方もいる。自己決定しにくい方には声かけしながら一緒に決めている。常に清潔な衣類を心がけ汚れたら更衣できるように支援している。化粧をする方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好むものを、メニューに取り入れている。季節の野菜、果物を取り入れた料理で、楽しみながら食事ができるよう工夫している。たまねぎの皮むき、ピーマンの種とり等、盛り付け、味見、ごますり、片付け、テーブル拭き、お盆拭き、食器洗いなどを一緒に行っている。利用者と共に植えた、ピーマン、ナス、にがごり、トマト、じゃがいも、かぼちゃ等も収穫し食材として使っている。職員、利用者、同じテーブルにて同じものを一緒に食べている。好き嫌いを聞き個別に対応している。	会話を通じて好みをくみ取るよう努め、地域の方々や職員の差し入れ、菜園の野菜も含めて旬の食材を利用している。また、野菜の下ごしらえや盛り付け、食卓の準備や後片付けなど、利用者と一緒に行える事を支援している。季節の行事食や誕生会等の特別メニュー、弁当持参の外出や外食のほか、季節の行事に合わせたお菓子や料理を利用者と一緒につけて楽しむにつなげている。なお、2か月に1回は法人の方針で利用者全員で外出に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に、毎食事摂取量、水分摂取量を記録し、水分が足りないときは、こまめに提供したり、好みの飲み物を家族の協力を得ながら提供している。食事量を、能力的に加減できない人は職員で配慮している。旬の野菜を献立に取り入れている。献立表を作り、野菜、肉、魚、果物等、同じものが片寄らないよう工夫している。柔らかめに調理し、提供している。朝食前、毎食時、10時、15時、入浴前後、就寝前、外出後に水分補給を実施している。本人の状態に合わせて冷たいものや温かい飲み物を提供している。シャーベット状にしたり、ゼリーにしたり工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、起床時、はみがきを実施している。能力に応じ、歯ブラシを手渡し、コップも手渡す。介助が必要な方、理解できない人には声かけ、誘導、できない部分や総仕上げは職員で行っている。奇数日、ポリドントを使用介助している。夜間は義歯の保管をしている。拒否のある方へはポリドントの時間の工夫をしている。毎日ポリドントを実施する方もいる。勉強会で、口腔ケアの重要性を周知し、肺炎予防に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>水分量、食事量に気を配り、排泄チェック表に、排尿、排便の有無を記録し、活用している。排泄チェック表を活用し、尿意のない利用者にも時間を見ながら誘導し、排泄リズムができるよう支援している。排泄チェック表に記載漏れのないよう努めている。ズボンの上げ下げ拭き取りなど、声かけを行い、できない部分は介助している。</p>	<p>排泄チェック表の活用と共に見守りの充実も図り、時間を見ながら声掛けや誘導に努めて可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者個々の習慣や身体機能に合わせた工夫もプランに組み込み、言葉かけを始めとして羞恥心や不安の軽減にも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、豆乳か、ヨーグルト、乳酸菌飲料を提供し、自然排便ができるように努めている。芋や、寒天を使ったおやつなどを手作りで提供している。毎日午前、午後共に、体操を実施し、身体を動かすように促している。水分摂取は、起床時、毎食事時、10時、15時、入浴前後、就床前、夏場は17時、夜間起きた際、に提供している。本人希望時にも提供している。便秘対策は、排泄チェック表にて、個々に応じて行っている。食事も、野菜、果物、繊維のあるものを取り入れ、献立の工夫をしている。毎朝バナナを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本、一日置きに入浴していただけるように、配慮し、一人ひとりに合わせた、入浴の声かけを行っている。(タイミング、時間など) また、前向きな言葉かけをこころがけている。必ず、職員がつきそうが、利用者ができる部分はして頂き、不十分な所は介助している。健康状態を把握し、声かけし、気分が添わない方は、清拭、手浴、足浴を行っている。午前、午後、問わず入浴可能。便失禁時などシャワー浴に努めている。毎日入浴される方もいる。	入浴は基本的には一日おきであるが、利用者の希望等によりいつでも入浴できるよう配慮している。常に健康状態に気配りしながら、足浴や清拭、シャワー浴への切り替えも行っている。入浴をためらう場合には、時間帯の変更や職員の交替、繰り返しの声かけも工夫して気分転換を図るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、起床は規則正しいリズムの中で自由である。適度な運動なども心がけている。本人の希望時は、睡眠に影響の無い範囲内で、ホール(ソファ、たたみの上)居室内で休息していただいている。室温や寝具調節をしている。天気の良い日は寝具干し、汚染時、週一回のシーツ交換をしている。寝付けない利用者がある際は、隣で寄り添っている(傾聴、添い寝、温かい飲み物の提供など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届いた時には確認し、説明書を読んでいる。薬の変更時は、連絡帳、業務日誌にも記入し、情報を共有している。副作用や変化に気配りしている。名前、日付を記入し、薬の説明書は、個人ファイルに綴じている。与薬時は日付、名前、朝、昼、夕、寝る前などをきちんと読み上げ、2名で、確認し本人に手渡し飲み込みまで確認している。利用者に応じ、口まで与薬介助し、誤嚥などがないよう配慮している。飲むことに拒否した場合は時間を置いて与薬したり、他の職員と交代し服薬していただいている。強い拒否のある入居者さんは医師へ相談し、薬剤師の方へ依頼し、潰すなど飲んでいただけよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いをさせていただいた際は、感謝の言葉を伝えるようにしている。苗物の植え付け、収穫、草取りの実施。散歩や食材の買い物などの場を設けている。個別の能力、その日の体調に応じた支援を行っている。(掃除、洗濯干し、しわ伸ばし、食器洗い、盛り付け、テーブル拭き、食事の挨拶など)季節に応じた献立を作っている。季節の行事を取り入れている。枕カバーや雑巾縫い、歌、折り紙、踊りなど、活動できるように、努めている。本人もちの飲み物(ジュースなど)やお菓子、焼酎の提供を行なっている。家族の面会時に、居室で一緒にお菓子を食べられるような雰囲気作りをしている。外食なども自由にできる。外出時の身だしなみの支援をしている。地域の行事、施設内の行事の情報を提供し、本人だけでなく、ご家族とも一緒に参加できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の状態、体調に応じて交代で外出できるように支援している。(近所への散歩、はがきの投函、ランチやおやつなどの外食、コンビニ、買い物、ドライブ、自宅訪問) 地域行事へ可能な限り参加している。家族の協力のもと、外出(自宅、墓参り、病院、美容院、温泉など) 外泊、外食、など行っている。好きな所へドライブに行っている。誕生日には本人のしたいことをかなえている。	家族からの情報収集とともに、個々の利用者の好みや習慣は日常会話からもくみ取り、天候や本人の健康状態に応じて、買い物・近隣の散歩・ドライブ・一時的な帰宅等によく出かけている。また、年に数回は計画的に、季節の花見や地域の行事など、可能な限り楽しく外出できるように工夫・支援を行っている。家族と一緒に帰宅や墓参り、通院、美容院、温泉、外食なども積極的に勧めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意のもと、希望者にはもたせている。使おうとしない。忘れていた事もあるが、買い物時、必要に応じた額をレジにて手渡し本人から支払いが出来る様支援している。職員と一緒に買い物に行き、好きなものを選んで購入することもある。初詣時は、自分の財布より賽銭をだされたり、お守りを購入している。本屋さんへ電話し本の配達をしてもらっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者より家族への電話の希望があれば対応している。友人からの電話もある。家族から電話があった時や、こちらから、電話をかけた時など、話ができるようにしている。本人宛に贈り物があった時には、必ず、電話で話しができるように支援している。手紙やはがきのやりとりもある。携帯電話を持っている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、換気や掃除を行い清潔にしている。季節感のある花や掲示物（絵や折り紙）を飾り、利用者、面会者が楽しめるようにしている。エアコンなどを使用し、適温になるよう調整している。温度計、湿度計を設置している。陽射しの調整をカーテンで行っている。童謡、民謡、流行歌を流し、料理などで、五感（包丁の音、料理のできる匂いなど）や季節感を意識的にとり入れるよう工夫している。季節のおやつ（さくら餅、ぜんざい、ちまきなど）や料理（呉汁、ぼたもち、年越しそば、恵方まきなど）を利用者と共に作っている。行事にあわせた、飾りの工夫をしている。ゆったりとくつろぎたい時にはソファや畳の利用がある。	敷地には花壇や菜園があり、天気の良い日には野菜の収穫や菜園の手入れが楽しめる。明るく広いリビングは、季節を感じながら居心地よく良く過ごせるように花飾りや手作りの作品、行事の写真等の掲示がなされている。調理する音や匂いも感じられ、室温や湿度の調節、清潔保持にも配慮がなされ、畳のスペース、ソファなども含めてゆったりとお茶や会話も楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間で居室への行き来が自由にできる。ソファや畳があり、座ったり、横になったり、自由に利用できる。各フロア間の行き来も自由であり（エレベーター使用、職員同行）、お茶のみも自由である。気のあった利用者同士、居室を行き来し談笑たり、ホール内のソファに腰掛、テレビを見たり、談笑されている。一人になりたい時には、自由に居室に行くことができる。個人で、読書、新聞等やテレビが見られるよう配慮している。職員の休憩時間に一緒にお茶を飲む事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所前に、使いなれた家具、寝具、衣類、椅子、テーブル、ソファ、ベッドなどをもってきていただくよう、協力していただいている。ベッドのほか、畳で休まれる方もいる。サービス利用の開始時に、利用者、家族、と話し合い、使いやすいように配置にも工夫している。使いなれたご飯茶碗、湯呑み、箸を使用している。できるだけ、自宅に居るときと、同じような空間で生活できるよう心がけている。家族・友人の写真、ぬいぐるみ、時計などを持ってきている。</p>	<p>利用者が使い慣れた家具や寝具、衣類、写真、ぬいぐるみ、時計や小物などを持ち込んで頂き、自宅と似た環境作りがなされ自由に過ごせるようになっている。居室は明るく、床はフローリングでエアコンとベッドが準備され、清潔保持には特に配慮がなされている。遠方の家族などが希望される場合には、宿泊も可能となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレ、浴室、ホールに手すりの設置。浴槽内・脱衣場には滑り止めマットを使用している。必ず、介助者一人、利用者一人の脱着、入浴利用である。居室、トイレ、ホールに段差はない。洗面台、便座も低い高さを設けている。脱衣場から浴室へは段差があり、一般家庭と同じような作りで、自立に向けた、生活が送れるよう工夫している。洗面所も広い作りになっている。洗面所床や廊下、フロアの水濡れがないよう、常に心がけている。利用者の表情、言動行動から本人がどうしたいかを感じ取り、さりげなく支援している。失敗を責めないようにしている。もっているできる力に応じた、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、しわ伸ばし、食器洗い、などの家事活動を行っている。居室入り口、共同トイレ、浴室に表札を下げている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない